

# ご紹介!これまでのスタ☆ふくツアー!

## 第2回ツアー開催 喜多方市

会津地方に位置する喜多方市は蔵の町として観光が盛んな地域です。しかし、震災後、年間7000人訪れていた観光客は0人になったといいます。目に見えない風評被害と戦う地域の人に密着しました。

## 第3回、4回、6回ツアー開催 二本松市

二本松市東和地区は古くから農業に力を入れてきた地域です。一見震災の被害は見えない地域ではありますが、風評被害の影響は計り知れません。「福島の野菜って大丈夫なの?」そんな疑問に農家と直接向き合います。

## 第1回、5回ツアー開催 いわき市

いわき市は太平洋に面し、漁業が盛んな地域です。原発事故による汚染水の流出で、漁師は末だに漁ができない状況にあります。訪れなければわからないいわきの真実を求め、海の男たちを追いました。

福島大学

### 参加者インタビュー



第1回ツアー参加  
菅沼里保さん(大学生/東京)

今でもよく覚えているのは、漁師さんがこぼした「なんでたべねえんだ」という一言です。知識として知っていた「風評被害」が、現実のものであることを痛感しました。参加して、知れば知るほど私に見えてきてものは、福島で起こっている問題の大きさと複雑さでした。正直、ツアー参加後はその大きさゆえ、自分に出来ることなどあるのだろうかと思自暴自棄になりました(笑)。けれども、知ることが始まりだし、考え続けることをやめず、今後も自分なりに福島と関わっていこうと思っています。

### 第2回ツアー / 2012夏・喜多方



参加者インタビュー  
第2回ツアー参加  
矢嶋隆弥さん(大学生/大阪)



自分たちに何が出来るんやろう?と改めて考えられ、「一緒に福島に遊びに行こう」という単純かつシンプルで気楽な答えにたどり着いたことが大きかった。今度は仲間たちを連れてまた帰ってきたい!

参加者インタビュー  
第4回ツアー参加  
佐藤仁さん(大学生/宮城)



テレビに映っている情報しか知らない私は福島に行くまで「現地の人はずっと落ち込んでいるのだろう…」と思っていました。しかし実際に現地に行くと「風評被害をなくせるように頑張っている!」という前向きな人たちがばかりでした。そんな人々たちから刺激を受け、スタ☆ふくに参加するたびに「自分にも何かできることはないだろうか」と考えさせられます。参加するたびに得られるたくさんの新しい発見や出会いをいつも楽しみにしています。



第4回・二本松



第2回・喜多方



第2回・喜多方

### 第4回ツアー / 2012冬・二本松



第4回・二本松



第4回・二本松



### 第5回ツアー / 2013夏・いわき



第5回・いわき



第5回・いわき

### 第6回ツアー / 2013夏・二本松



第6回・二本松

### 企画者の声



第6回ツアープロジェクトマネージャー  
鈴木晴香(福島大学2年)  
「福島」といっても、地域によって抱える現状や様子は異なります。ツアーによって地域や参加者に自分たちは何が出来るのか、常に考えながらツアーを企画しました。地域の方との「対話」を大切にしながら、スタ☆ふくだからこそできる「福島」の旅を提供していけるよう頑張っています!

### 参加者インタビュー



第5回ツアー参加  
漆戸香澄さん(大学生/埼玉)

来る前まで福島が「フクシマ」なようにいわきも「イワキ」だと思ってました。単純なイメージでいわきは危ないんじゃないか、漁師さんは打ちひしがれているんじゃないかって。でも、実際漁師さんと話すと明るく私たちに振舞ってくれて、怖かったイメージもなくなりました。顔が見える関係ってやっぱり大切!

### 参加者インタビュー



第2回・第5回・第6回ツアー参加  
北原智華さん(大学生/徳島)

昨年の東和でのツアーに参加して東和の人が好きになり、二回目また東和の人に会いにきました。東和の人たちの前に進んでいこうとする姿や、結の精神で助け合おうとする姿は去年と変わってなくてホッとしました。前回とまた違った参加者にも会えたり、地域の人ともより深い交流ができた、とてもいい時間が過ごせました!

### 参加者インタビュー



第6回ツアー参加  
中谷紗里さん(大学生/東京)

ワイナリー工場で「自分がやりたいからやるんだ。楽しくないと続けられない」と話していた農家の人の声がとても印象的でした。福島だからといった特別な問題ではなく、地域がよくなっていく上で日本全国どこでも当てはまる問題だし、いいヒントを得られた気がします。



第6回・二本松



第6回・二本松

# 「スタ☆ふく」は福島を応援する団体です。

2011年3月11日。  
福島は大きな災害に遭遇しました。  
未曾有の大地震に大津波、そして原子力発電所の事故。日本や福島を取り巻く閉塞感の中で立ちあがった学生がいました。

「福島のことを忘れてほしい」  
「辛い状況でも一歩ずつ進んでいる姿を伝えたい」  
「再興へ向けて福島の人々が前向きになれる場を作りたい」

2012年4月、このような想いを持って「スタディ☆ふくしま」プロジェクトは誕生しました。自分の目で実際に見ないと分からないこと、メディアを通してでは感じることはできないことがあるのではないかと。

こうして始まった福島を感じて考えるスタディツアーはこれまで県内3カ所ですべて6回開催し、参加者の満足度もほぼ100%の評価をいただいております。

あなたも地域の人々と直接交流する機会に触れ、地域の抱える現状や課題、そして将来について一緒に考えてみませんか。



## 代表/吉田 江里

福島県出身の私にとって福島は大好きな故郷であり、特別な場所です。風評被害などと向き合いながらも、それぞれの地で誇りを持って力強く生きている人々と出会い、福島への思いはますます強くなりました。

イメージで語られることの多い「福島」ですが、そこに生きる人の姿・声や想いに触れることで初めて、福島「ありのままの姿」がみえてきます。地域と人をつなぐ架け橋として私たちができること、そのひとつが県内外から参加者を募集して行うスタディツアーであると考えています。

私たちのツアーは地域の人たちと一緒に試行錯誤しながら心をこめて作ったプログラムであり、多くの方々の協力なしにはできません。感謝の気持ちと福島への敬意を忘れず、自分たちにできることを模索しながら、今後も活動していきます。



スタ☆ふくプロジェクトメンバー

## 「スタ☆ふく」過去の実績

- ・福島県内で過去に6回のツアーを実施
- ・参加者の満足度はほぼ100%
- ・観光庁主催第一回「今しかできない旅がある」若者旅行を応援する取り組み表彰にて「東北ブロック賞」を受賞



## ご協力いただいたみなさま

協賛 (株)バルニバービ / NPO法人まちづくり喜多方

協力

丸貞蒲鉾合資会社 / 福島県水産試験場 / いわき市農林水産部水産振興室 / いわき市漁業協同組合 / 元祿彩雅宿古滝屋 / 喜多方の農家のみなさま / ふるさとネットワーク東和 / NPO法人ゆづきの里東和ふるさと協議会 / 大七酒造(株) / 東和の農家のみなさま / ふくしま農家の夢ワイン(株) / 任意団体ハーモニー / 任意団体Link with ふくしま / 福島交通観光(株) ※敬称略

## 協力者の声



片平 正子さん <二本松>  
もともと自分たちも地域を盛り上げようと活動しており、スタ☆ふくとはお互い高め合っている関係です。スタ☆ふくのツアーを通して、同年代の東和の女性たちがとても協力的になった気がします。料理が得意だったり、話すのが好きだったり自分のできる範囲でできることを積極的にやってくれるようになったんです。地域に住む人ひとりひとりが自分らしさを生かせることで地域が盛り上がっていったらいいと思います。



NPO法人まちづくり喜多方 代表理事 蛭川 靖弘さん <喜多方>  
若い学生が福島の未来を創っていく。既存の価値観ではなく、3.11以降の福島から日本の新しい価値を創造する為に、たくさんの仲間を連れてきて福島の現状を学ぶ。そんなスタ☆ふくに、福島に生まれ育った私達が関わった事に感謝！スタ☆ふくを通して、私達も多くの学びを得ました。



漁師 白井 紀夫さん <いわき>  
漁を自粛している状況で、ツアーはとても大きなイベントで、私たち漁師自身が楽しむことができました。参加者のひやかしてはいい、学ぼうとする姿勢や真剣な姿がとても印象的です。数字だけでは伝えられない、顔の見えるつながりができる機会はとても大きなものだと思います。「自分たちの魚を堂々と売りたい」その想いのもと、漁師は日々取り組んでいます。来年は自分たちがとった魚を食べてほしいという思いがより強くなりました。

## お問い合わせ



スタ☆ふくプロジェクト  
〒960-1244  
福島県福島市金谷川1福島大学学生課

QRコード



<http://sutahuku.jimdo.com>  
f スタ☆ふくプロジェクト @study\_fukushima  
✉ sutahuku@gmail.com

このプロジェクトは、「住友商事ユースチャレンジ・プロジェクト」「福島大学キャンパスライフ活性化事業」「福島県知事直轄広報課「いいね！ふくしま」委託事業」より助成を受け活動しています。

